

認知症テーマに3氏解説

東北大と読売新聞東京本社が共同で企画した講演会「市民のためのサイエンス講座2014」が29日、仙台市青葉区の市福祉プラザで開かれた。「ここまでわかった認知症予防とケア」と題して、認知症の基礎知識から最新の研究成果まで、同大大学院医学系研究所の目黒謙一教授ら3人の専門家が講演。約300人の参加者が、真剣に聞き入った。

目黒謙一・東北大大学院教授

ボケても安心な社会に

目黒教授は認知症について「脳の病気によって認知機能が低下し、日常生活に支障を来した状態」と定義。



認知症をテーマに講演する目黒教授（29日、仙台市青葉区で）

ントを挙げた。

さらに、アルツハイマー病や脳血管障害など、認知症の主な病気について、原因や特徴などを解説。頭や身体を使う活動は、生活の満足度を向上させるものの、認知症予防に関して

木之村重男・画像医学と脳健診診療所長

生活習慣の見直しを

NPO法人「画像医学と脳健診」の診療所（仙台市）脳血管性認知症の原因とな

仙台市太白区、元介護職員菅原由美さん(60)「認知症の分類がよく分かった。

* 参加者の声

認知症は、症状であり、原因となる病気は様々であるということは知っていたが、改めてはつきりと教えてもらい、とてもためになった。ぜひまた聞きたい」

「分類がよく分かった」
「食事に気をつけたい」

仙台市若林区、主婦大友しげ子さん(73)「認知症について、これまで私が持っていた知識は、かなり間違っていたことが分かった。テレビなどの情報だけでなく、正しく知ることが大切

る脳卒中の予防について講演した。

日本人が寝たきりになる原因の6割を脳の病気が占めることを示し、「認知症のうち、脳血管性認知症は

山崎英樹・いずみの杜診療所医師

その人の苦勞を知る

いずみの杜診療所（仙台市泉区）の山崎英樹医師は、認知症になった人の視点から、ケアのあり方について語った。

まず、認知症は体のマヒなどと違い、一見しただけでは分かりにくい「見えざ

だと思った。認知症のケアについては、同じ目線が大

切だと感じた」

仙台市泉区、無職小松金助さん(76)「認知症ケアは、押しつけるのではなく、相手の気持ちを酌むことが大切だと分かった。今後、介護をすることになったら、役立てたい。今日の話は、周りの人にも教えてあげたいと思った」

仙台市青葉区、主婦坂本公子さん(76)「血圧が高めなので、食事などに注意しよう」と改めて思った。運動

20〜30%で、検診である程度見つけられる」とした。脳卒中のうち、動脈瘤が破裂して起きるくも膜下出血は、「高血圧、喫煙、過度の飲酒などが要因」と説明。

脳の血管が詰まる脳梗塞や、脳の血管が破れる脳出血は「高血圧や脂質異常症などの治療と、喫煙・飲酒習慣の見直しや体重のコントロールが重要」と話した。

また、医療や介護の専門家の知識と善意が、認知症の人に対する押しつけにつながる心配があるとして、「その人」に「何ができるかではなく、その人」と「何ができるかを考えよう」と語りかけた。

や地域とのコミュニケーションも大事とのことなので、週3日やっている球技のペタンクや婦人会の活動などを今後も続けていきたい」

仙台市泉区、無職浜中竹子さん(77)「それぞれの講師で視点が違い、広く認知症を学べたのが良かった。認知症を『ボケ』といった軽い言葉で考えるのではなく、病気だと意識したい。高齢者が増え、社会的課題なので正しい知識を持ちたい」